

2019（令和元）年度 全国私立中学高等学校
私立学校特別研修会
英語教育改革特別部会
（東日本エリア）
実施報告

一般財団法人日本私学教育研究所 主催／日本私立中学高等学校連合会 後援

国においては、グローバル化への対応の一環として、新学習指導要領の実施に向け小・中・高等学校を通じた抜本的な英語教育改革を推進するとともに、大学入試の英語にも4技能を総合的に評価する出題や民間試験の導入を予定しており、私立学校においてもこれらの対応は喫緊の課題です。そこで当研究所では、英語科教諭の指導力強化を図るための特別研修を実施しております。

【東日本エリア】では、初日は聖光学院中学高等学校（神奈川県横浜市）を会場に、英語の授業の視察、視察校の教諭を交えた意見交換等を行いました。同校は、英語力の基礎を確立するため、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランス良く身につけるように授業を行っており、英語の時間数も中学1年生から高校1年生までは7時間、高校2年生は6時間、高校3年生は理系7時間、文系9時間と多く、また、中学2年生から高校1年生はネイティブによる英会話の授業を行っています。

翌日は崎陽軒本店会議室において、東京大学大学院教育学研究科教授の齋藤兆史氏による講演、文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップ、英語教育推進リーダーによる模擬授業を行いました。また、参加者の交流を深めてネットワークづくりを進める多彩なプログラムを実施しました。

- ◆ 会 期 ◆ 2019（令和元）年5月31日（金）～6月1日（土）
- ◆ 会 場 ◆ 聖光学院中学高等学校 5/31（JR 山手駅）横浜市中区滝之上 100 番地
崎陽軒本店会議室 6/1（JR 横浜駅）横浜市西区高島 2-13-12 崎陽軒本店 6 階
- ◆ 参加人員 ◆ 76名
- ◆ 参加対象 ◆ 都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校の英語科教員
- ◆ 日程概要 ◆

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
5月31日(金) 聖光学院中学高等学校	30	30		30	開会式 視察校 実践発表	20	研究授業・施設見学	30	研究協議Ⅰ	30
6月1日(土) 崎陽軒本店会議室		講演	ワークショップ Ⅰ	昼食	ワークショップ Ⅱ	実践発表 模擬授業	研究協議Ⅱ	閉 会 式	WSは 3グループ	

◆ プログラム ◆

- ①講 演 演 題「さまざまな英語教授法とその使い方」
講 師 齋藤 兆史 東京大学大学院教育学研究科 教授
- ②視 察 校 テ ー マ「中高六年間を通じた総合的な英語指導」
実 践 発 表 発 表 者 黒田 洋平 聖光学院中学高等学校 教諭
- ③質 疑 応 答 ☆研究授業者との質疑応答、グループでの意見・情報交換を通して課題を探求
・意見交換会 します。
- ④研 究 授 業 聖光学院中学高等学校（授業視察・施設見学）
- ⑤研 究 協 議 Ⅰ 視察校授業者・英語科教諭との意見交換
- ⑥実 践 発 表 英語教育推進リーダーによる実践発表及び模擬授業
・模 擬 授 業 テーマ「Reduce TTT」
発表者 中川 千穂 工学院大学附属中学高等学校 教諭
テーマ「The Power of Personalisation in English Class」
発表者 横内 敦 横浜清風高等学校 教諭
- ⑦ワ ー ク シ ョ ッ プ 英語で授業のヒント Teaching English in English
「Personalisation & Authentic Material」
平成 30 年度文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者
- ⑧研 究 協 議 Ⅱ ワークショップ、模擬授業等についての意見交換

◆ 日程表 ◆

5月31日(金)

〔会場 聖光学院中学高等学校 小講堂〕

12:00	受 付 (ラムネホール前ホワイエ)		
12:30	◆開会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長 1. 開 式 2. 主 催 者 挨 拶 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長 中川 武夫 3. 視察校代表挨拶 聖光学院中学高等学校 理事長・校長 工藤 誠一 4. 日 程 説 明 聖光学院中学高等学校 教 諭 黒田 洋平 5. 閉 式		
13:00	◆視察校実践発表 司会 浜野 能男 英語教育改革特別委員 テーマ 「中高六年間を通じた総合的な英語指導」 報告者 黒田 洋平 聖光学院中学高等学校 教諭		
13:20	◆研究授業 (授業は各教室で行います。) 5限目 (13:20~14:10)		
14:10	学年・クラス・授業名	授業者	教室
	中学1年D組 英語I (帰国)	百 武 沙 紀	中央棟3階 マタイ教室
	中学3年E組 グローバルコミュニケーション	Christopher Holm	中学棟2階 中3E組教室
	高校1年A組 英語I	脇 濱 継 資	高校棟2階 高1A組教室
	高校3年F組 英語I	荻 江 一 人	高校棟4階 高3F組教室
14:20	6限目 (14:20~15:10)		
15:10	学年・クラス・授業名	授業者	教室
	中学3年B組 グローバルコミュニケーション	Gloria Ngu	中央棟3階 マルコ教室
	中学3年D組 英語I (一般)	河 野 周	中学棟2階 中3D組教室
	中学3年D組 英語I (帰国)	Scott Gorow	中央棟3階 ルカ教室
	高校1年E組 英語II	黒 田 洋 平	高校棟2階 高1E組教室
15:10	◆施設見学 「文化を創る」を合い言葉に計画された新校舎を見学します。		
15:30	◆研究協議 I 研究授業を受けての質疑応答の後、グループに分かれて意見交換を行います。 司会 山崎 吉朗 一般財団法人日本私学教育研究所 特任研究員 1. 質 疑 応 答 (15:30~16:30) 2. 意 見 交 換 会 (16:30~17:00) ファシリテーター 英語教育改革特別委員		
17:00	解 散		

9:30	<p>◆講演</p> <p style="text-align: right;">司会 浜野 能男 英語教育改革特別委員</p> <p>演 題 「さまざまな英語教授法とその使い方」</p> <p>講 師 齋藤 兆史 東京大学大学院教育学研究科 教授</p>
11:00	〔会場：1号室〕
11:00	<p>◆ワークショップ I</p> <p style="text-align: right;">司会 A group：浜野 能男 英語教育改革特別委員 B group：伊藤 佳貴 英語教育改革特別委員 C group：桜井 吾朗 英語教育改革特別委員</p> <p>テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」 Personalisation & Authentic Materials</p> <p>指 導 (A group) 亀井 友子 公文国際学園中等部高等部 教諭 (B group) 林 嗣博 椋山女学園中学高等学校 教諭 (C group) 中庭 祐樹 名古屋経済大学高蔵中学高等学校 教諭</p>
12:00	〔会場 A：1号室/B：2号室/C：3号室〕
12:00	◆昼食
13:00	※各ワークショップ会場にて、情報交換会・懇親を兼ねて昼食をお取り下さい。
13:00	<p>◆ワークショップ II</p> <p style="text-align: right;">司会 A group：浜野 能男 英語教育改革特別委員 B group：伊藤 佳貴 英語教育改革特別委員 C group：桜井 吾朗 英語教育改革特別委員</p> <p>テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」 Personalisation & Authentic Materials</p> <p>指 導 亀井 友子 公文国際学園中等部高等部 教諭 林 嗣博 椋山女学園中学高等学校 教諭 中庭 祐樹 名古屋経済大学高蔵中学高等学校 教諭</p>
14:00	〔会場 A：1号室/B：2号室/C：3号室〕
14:00	<p>◆実践発表／模擬授業</p> <p style="text-align: right;">司会 伊藤 佳貴 英語教育改革特別委員</p> <p>英語教育改革推進リーダーによる実践発表／模擬授業</p> <p>テーマ 「Reduce TTT」</p> <p>発表者 中川 千穂 工学院大学附属中学高等学校 教諭</p> <p>テーマ 「The Power of Personalisation in English Class」</p> <p>発表者 横内 敦 横浜清風高等学校 教諭</p>
15:20	〔会場：1号室〕
15:20	◆研究協議 II
16:15	<p style="text-align: right;">司会 伊藤 佳貴 英語教育改革特別委員</p> <p>※ワークショップ及び模擬授業に関して、ワークショップ指導者、英語教育推進リーダー及び参加された先生方で、質疑応答を交えながら意見交換を行います。</p>
16:15	〔会場：1号室〕
16:15	◆閉会式
16:30	<p style="text-align: right;">司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長</p> <p>1. 開式</p> <p>2. 総括 一般財団法人日本私学教育研究所 特任研究員 山崎 吉朗</p> <p>3. 閉式</p>
16:30	〔会場：1号室〕
16:30	解 散

視察校での写真撮影について

生徒個人が特定できる写真撮影は禁止とします。撮影した写真は学校内の研修や報告等に活用する場合に限り使用を許可しますが、学校のホームページや紀要・報告書等への掲載、参加者個人の SNS やインターネットのサイトへのアップロードは禁止とします。また撮影写真の使用後は速やかに破棄頂きますようお願いいたします。また、動画（ビデオ撮影等）についてはすべて禁止とします。

◆ 学校紹介 ◆

聖光学院中学高等学校 (理事長・校長 工藤 誠一)

設立母体は 1817 年にフランスで創設されたキリスト教教育修士会。昭和 33 年 4 月に聖光学院中学校が、昭和 36 年 4 月に聖光学院高等学校が創立された。建学の精神は、『カトリック的世界観にのっとり、人類普遍の価値を尊重する人格の形成、あわせて、高尚、かつ、有能なる社会の成員を育成する』にある。

2017 年度から「科学・技術で新しい時代を切り拓くリーダーを育む中高一貫プログラム」をテーマに 5 年間 SSH (スーパーサイエンスハイスクール) に指定されている。また外部からの特別講師も招きアカデミックな内容を盛り込んだ「聖光塾」や、選択芸術講座など特色ある教育を行っている。

◆ 講師プロフィール ◆

齋藤 兆史

1958 年栃木県生まれ。東京大学文学部卒業、同大学院人文科学研究科修士課程修了。インディアナ大学英文科修士課程修了。ノッティンガム大学英文科博士課程修了。東京大学文学部助手、同大学院総合文化研究科准教授、教授などを経て現職。専門は英語文体論、英文学、英語教育。著書に『英語達人列伝』、『英語達人塾』(以上、中央公論新社)、『英語の作法』、『翻訳の作法』(以上、東京大学出版会)、『英語の味わい方』、『英文法の論理』(以上、NHK 出版)、訳書にラドヤード・キプリング『少年キム』(筑摩書房)、V・S・ナイポール『ある放浪者の半生』、『魔法の種』(以上、岩波書店)、監修書に『英語へのまなざし——齋藤英学塾 10 周年記念論集』(ひつじ書房) などがある。

◆ 講師・発表者・指導員(順不同) ◆

齋藤 兆史	東京大学大学院教育学研究科 教授
工藤 誠一	聖光学院中学高等学校 理事長・校長
横内 敦	横浜清風高等学校 教諭
中川 千穂	工学院大学附属中学高等学校 教諭
亀井 友子	公文国際学園中等部高等部 教諭
林 嗣博	椋山女学園中学高等学校 教諭
中庭 祐樹	名古屋経済大学高蔵中学高等学校 教諭
吉田 晋	富士見丘中学高等学校 理事長・校長
中川 武夫	蒲田女子高等学校 顧問

◆ 特別委員・指導員(順不同) ◆

平方 邦行	工学院大学附属中学高等学校 校長
浜野 能男	普連土学園中学高等学校 教頭
黒田 洋平	聖光学院中学高等学校 教諭
桜井 吾朗	田園調布雙葉中学高等学校 教諭
伊藤 佳貴	大同大学大同高等学校 教諭
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長
山崎 吉朗	一般財団法人日本私学教育研究所 特任研究員

私立学校特別研修会

外国語(英語)教育改革特別部会【東日本エリア】

実施概要

令和元年5月31日・6月1日、聖光学院中学高等学校および崎陽軒本店会議室を会場に開催し、全国の英語教員76名が参加した。

初日は聖光学院中学高等学校にて開会式を行った後、研究授業を視察。続いて黒田洋平・同校教諭からの実践発表、研究授業を行った先生方との質疑応答の後、全体で意見・情報交換を行った。

2日目は崎陽軒本店会議室に会場を移し、東京大学大学院教育学研究科教授の斎藤兆史氏の講演と、文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」(※以下 LEEP)平成30年度受講者の先生方の指導による英語でのワークショップ、実践発表・模擬授業、意見交換会が行われた。

【5月31日(金)】

開会式

①主催者挨拶(中川武夫・当研究所所長)

本日は全国から定員を大きく超える先生方にお集まり頂き、感謝申し上げます。また、聖光学院中学高等学校の多大なご協力にも感謝申し上げます。

現在進んでいる教育改革の中心には、英語教育の改革・推進がある。LEEPの開始時は、私学教員の参加は難しかったが、改善され現在に到る。明日の実践発表等で推進リーダーのお話を聞くことができる。また、大学入試における4技能をめぐる混乱は、収まる様子がない。対象の生徒は高校2年生になっているが、いまだにどのように大学入試を行うのかはっきりしていない。どんな悪条件でも「本校の生徒は守る」と、現状でできることをしていくしかないだろう。本研修会では、現状に即した様々な内容を用意している。英語教育のヒントを沢山お持ち帰り頂ければ幸いです。



②視察校代表挨拶(工藤誠一・聖光学院中学高等学校理事長・校長)

全国から沢山の方にお集まり頂き、感謝申し上げます。私共の英語教育が、少しでも皆様の授業の参考になれば幸いです。施設の説明も予定しているので、色々な部分で参考にして頂ければと思う。



視察校実践報告【黒田洋平氏】

黒田洋平・聖光学院中学高等学校教諭が「中高六年間を通した総合的な英語指導」をテーマに実践発表を行った。英語教育の特色あるカリキュラムや授業の実践例、関連する教育プログラムなどについての報告があった。



昭和33年に創立された聖光学院中学校高等学校はキリスト教に基づく中高一貫の男子校である。SSHにも指定されており、今年で3年目を迎える。

英語教育のカリキュラムでは、6年間を2年ずつ「前期」「中期」「後期」に分け、中期終了時には高校の範囲を完了する。私の授業では、4技能の指導を行っており、リスニング活動ではTED Talksから、難解な表現が少ないものを選んで活用している。また学期ごとにスピーキングの試験も実施しており、例えば「日本的なもの一つ取り上げ、それについて説明しなさい」といった「話すこと(発表)」の実践を行っている。家庭学習に関しては、グーグルクラスルームを活用しながら、学習の管理と促進に努めている。

英語教育に関連するその他のプログラムについても紹介する。オンライン英会話は中学2~3年生で必修としており、1回25分のレッスンを週に3回、放課後の学校もしくは自宅で受講することになっている。

高校生は毎日 25 分のレッスンを希望者が受講している。夏休みに実施される English Camp や、マレーシアからのインターン学生を迎えての中学 1 年生を対象とした英語ワークショップ（夏休みと冬休みに実施）、シリコンバレー研修をはじめとする数多くの海外研修プログラムなど、様々な取り組みをしている。

研究授業

研究授業は、5・6 時間目に中学 1 年、3 年、高校 1 年、3 年の計 8 クラスで英語の授業を視察した。その後はグループに分かれ、聖光学院中学高等学校関係者の案内で施設を見学した。参加者からはレベルの高い授業に驚いた、様々な授業を視察することができ参考になった等、熱い反響が寄せられた。



研究協議 I

5・6 限目の研究授業と実践発表について、授業を担当された聖光学院中学高等学校の先生方を招き、質疑応答を行った。その後、参加者はグループ毎に意見・情報交換を行った。

○英語の授業の区分けについて教えてほしい。

→一般的なカリキュラムの名称と照らし合わせると以下のようなになる。

コミュ英 → 英 I

英表 → 英 II

OE → グローバルイングリッシュ等 ⇒ 担当者に自由度を持たせるための工夫。

○ネイティブの講師について。

・TESOL 資格者はいるか。

→いない。今後雇う際には考えるが、現在は長年勤務している講師だ。グローバルイングリッシュの授業では、週 1 回のペースで英単語のクイズ、一単元終わるごとに確認クイズをしていく。

・ネイティブ教員の雇用形態は？

→専任枠では 1 名、採用条件が専任とほぼ同じ講師が 3 名。



○帰国生の中でのレベルの調整について。

→あまりにも差が開いている場合は個人に聞き、一般クラスに戻ることもある。

高校 3 年で完全に返るが、大半が前向きに取り組んでくれている。

○オンライン英会話について。

・いつから？

→現高校 3 年生は選択、高校 2 年生からは全員、高校 1 年生が中学 2 年生の頃教科書が固まってきた。

- ・始めてからの成果は？
 - 話すことに抵抗がなくなってきたように感じる。
 - 英語に興味を持っている生徒が力をつけていて、生徒間の差が広がってきているのも事実。
- 民間検定試験について。
 - 費用面等を考えて GTEC を受けさせている。
- 河野先生の授業について。
 - ・プレゼンテーションについては教科で決定しているのか？
 - 教科としてはアウトプット活動を行うように決めているが、何を行うかは担当者の裁量に任されている。
 - ・どのくらいの頻度でアウトプット活動をされているのか？
 - 学期に 2 回程度。
- 黒田先生のスピーキング試験の評価基準については？
 - 構成、表現力（伝わっているかの点、発音面、文法面）、デリバリー。
 - ・評価の割合は？
 - A～D ＋もつける 頑張っていれば最低でも B ライン。
 - 原稿は読まないように、原稿を事前に出してきた生徒はチェックする。
- ネイティブが一人で担当しているが、最初からそのスタイルで行っているのか？
 - もともと修道士が一人で教えていたので、ネイティブが一人でやることに違和感がない。
- NT はいつから使っている？
 - もともと教科書なしでやっていた。教員の変遷がある中で文法の先生が NT を使って教えてはどうかということで採用した。使用に関しても自由度が高い。
- 高校 3 年のスピーキングレベルの目標があれば教えてほしい。
 - SSH であることもあり、発表できる、海外で少し話せるレベル。テストでのレベルではない。高校 3 年生で準 1 レベルは受かると考えている。TOEIC800 点は取れるレベルの力は有している。
- 英会話オンラインについて
 - オンライン英会話が普及する前から導入していたため、費用は他校と比べると安いのではないかと。朝と放課後に生徒たちは実施することができる。
- 読解の素材はどこから？
 - 高校 1 年生以降、教科書は使わない。ネイティブの小学校高学年が読むものを選ぶ。
 - 高校 2 年生以降は新聞、雑誌を使う。
 - 高校 2、3 年生は大人向けの小説等。
- GTEC の結果を受けて授業改善はしているのか？
 - 全体的なレベルを見たいため、そこまできっちり使ってはいない。満点を取った生徒は翌年受けないなどの対応もとっている。



質疑応答は終了し、この後は参加者が自由にお互い情報交換を行った。

講演

齋藤兆史・東京大学大学院教育学研究科教授より「さまざまな英語教授法とその使い方」を演題に講演が行われた。講演終了後には参加者から多くの質問が寄せられ、大盛況であった。

●英語教授法について

○GRAMMAR-TRANSLATION METHOD (GTM)

- ・古典的な教授法で現在は悪者扱いされているところがある。
- ・教科書を使って一文一文訳読していく。
- ・日本での文法訳読法と少し違う。
- ・西洋でも悪役扱いであるが、日本の英語教育とは流れが違う。

参照

福沢諭吉：蘭学の学び方 一人一人訳していく（会読）→訳読の原型となる。

漢学→蘭学→英学という流れ。

初期のうちには GTM が使われるが、書物を読む段階では GTM ではない。

→GTM は特定の文法項目を理解させるために、一文ずつ訳す手法であり、訳読式は書物などを読んでいく手法。

○ORAL METHOD

- ・パーマー氏が大切にされたことは(1)Initial Preparation (2)Habit-forming (3)Accuracy (4)Gradation (5)Proportion (6)Concreteness (7)Interest (8)Order of Progression (9)Multiple Line of Approach
- ・Accuracy を重要視した点が現在のコミュニカティブな教授法と異なる。

○Audio-Lingual Method

- ・あるパターンを繰り返すことで言語を習得するという考え。
- ・行動主義と構造主義のコンビネーションのアプローチ。
- ・C.C. Fries の Oral Approach と Pattern Practice。
- ・チョムスキーが「言語習得は生得的に行われるもの」とし、pattern practice は廃れる結果となった。

○Humanistic Language Teaching Methods

- ・人間的に教えようというアプローチで、以下の点を大切にする。
- (1)体全体を使って人間的に英語を教える。Total Physical Response
- (2)教師が話さずに指示語を使って引き出す。The Silent Way
- (3)語学学習はリラックスしてすべき、言語取得が促進される。
音楽を流す。その環境の中で先生が色々なものを使って教える。Suggestopedia
- (4)言語学習者は一つのコミュニティー。人間的な触れ合いの中で学ぶ。

Community Language Learning

○Communicative Language Teaching (CLT)

- ・色々な素材、内容を通してコミュニカティブなアプローチを通じて学ぶ。
- ・言語習得はコミュニケーションだという考えに基づいている。
コミュニケーションがすべてではないが…。

○Task-Based Language Teaching (TBLT)

- ・何かのタスクを通じて教育をする。

○Focus on Form

- ・文法訳読の Focus on Forms と二項対立の位置づけである Focus on Meanings では文法的な修得が促されない。そこで生まれてきた考え。
→コミュニカティブな教え方の中で、どうやって文法を理解させるかという考え。



- ・文法の間違えをコレクションでさりげなく直す。

(Could you say that again?や言い換えなどを通して)

- ・Dictogloss 文章復元練習。

※ジェレミー・ハーマー氏の出版物で扱われた授業を DVD で視聴。“The practice of English Teaching” DVD 付

- ・教師はネイティブ 学生は英語を母語としない留学生。

→この環境の中では訳読などできない。

→必ずしもそのまま日本に応用できるものでもないと認識すべき。

○その他の教授法、指導法、授業形態

- ・ CLIL

Natural Approach 自然な段階で、自然な環境で英語を学ぶ。

- ・ PPP (Presentation-practice-production) 少し古いと言われる。

- ・ 多読 (学習成功者の多くは行っている。)

- ・ 和訳先渡し

- ・ 協働学習

まとめ

○夏目漱石の英語教育論

教師の英語力の研鑽が軽視されている部分があるのではないか。英語力を高める必要がある。

○英語教育法に関する齋藤教授の私見

- ・教育内容の英語の質が軽視されている。質の良い英語を教える発想が希薄で、教授法や活動内容に注意が向きすぎている。教授法はその場の状況によって教師が選び、組み合わせる道具のようなものだと考える。
- ・教師はもっと自分の得意技を活かすべきである。英語で授業するのは良いことだが、質のよい英語で行うべき。

質疑応答

○齋藤先生の大学での授業はオールイングリッシュか？

→内容によるが、プレゼンテーションの授業は ALL ENGLISH、講義形式では半々などあるが、日本人相手であれば日本語で9割行う。

○協同学習 (アクティブラーニング) を学校として進めているが、グループで話し合っていれば良いわけではないとの指摘も受ける。もともとの理念は何なのだろうか。

→教師主導の授業を減らし、学びの共同体という考えに基づいている。協同学習だけがすべてではないと考える必要がある。先生がのびのびと教えられる環境を作るべき。

○校長が授業見学に来るときだけ英語でやっている。校長は教科での共有を促してくるが、同僚にはそれぞれの良さを生かして授業を行ってほしいと思う。

→質のよい英語で教えることが前提だが、教師の多様性を生かしてほしい。

○文法を教えるために何を使うとよいか。

→文法はある程度明示的に教えることは大事ではないか。文法配列になっているものを生徒に学習させるのが良いのではないか。



○入学してくる生徒たちに求める英語能力は？

→読解力は明らかに落ちている。最終的には論文を書くことになるのできちんと読む力、書く力を身に付けていてほしい。

○外部検定試験については？

→違うタイプの試験を横並びすることに疑問を感じる。

○東大の入試に込められたメッセージについて。

→入試は色々な人がかかわった妥協の産物。それぞれが感じ取ってもらえれば。

ワークショップ

参加者はA～Cグループに分かれ、LEEP 受講者による指導のもとワークショップを行った。今回は「Personalisation and Authentic Materials 1」「Personalisation and Authentic Materials 2」を実施した。参加者が生徒役となって授業を体験することで、英語で授業を行うための具体的な手順をはじめ、指導上の留意点や教材の作り方など、明日の授業に役立つ内容を共有することのできる良い機会となった。どの会場においても、参加者による積極的な議論や質疑応答が交わされ、時間が足りないほどの盛況ぶりであった。

○A グループ ワークショップ I

Instructor : Tomoko Kamei

Kumon International Junior and Senior High School

(Introduction)

Let's make pairs. I would like you to participate in the class actively. In yesterday's Mr. Kuroda's class, he used TED talk. TED talk is an authentic material. It's not for learners but for ordinary people. Besides how to use authentic materials, you will learn what personalization is in this lesson.

1. Demonstration lesson

In this part, you will be students.

Warmer A

(Warm up discussion)

What do they have in Scotland?

..catsle, Scotch whisky , golf, shortbread, Lake Ness



(Short PR video on Scotland - Scotland the sprits of the land)

What did you see? - beautiful nature like mountains and lakes

What does Scotland have? - island, engineering, mountains...

Warmer B

(Looking at the map of Scotland)

Description of Scotland - 3 parts of Scotland

2. First Reading

(Distribute cards on places or activities of Scotland.)

Your trip is on a Tuesday Wednesday and Thursday in April.

At the bottom of the card you can see whether the facility is open or not.

(Pair activity)

From the information on the card. Pick open facilities and put aside the ones not open during your trip.
The ones which are not open - Castle and Gardens of May, Sheawater Cruises.

3. Vocabulary

(Pronounce each word or expression on the list and check its meaning in Japanese)

4. Second reading

What's at the top of the card? - contact details

What is the middle part of the card? - description and information of the place

Turn over the activities card one at a time and read the description

- Tell your partner which activities look interesting to you

(Introduction of some useful expressions for this activity)

- This sounds good! Year, it does.

(5 minute activity)

(Match the pictures A-H on the wall with activities on the card.)

(Answer check)

Read each place together.

Pick some places and see their pictures and explanations on the handout

- Inverewe Gardens and Estates - unique plants

Kishorn Seafood Bar - beautiful scenery of the sea

Historylinks Museum - exhibition including Viking and witches

5. Making plans

Make plans for 3 day trip in Scotland with your partner

6. Telephone role-plan

(Mini role-play activity)

One works for Vist Sotland - check the plans to make reservation.

The other is going to visit Scotland in April.

You can't see the partner in telephone role play.

(Useful phrases)

Practice - repeat without looking the slide



Reflection & Analysis

Now you are teachers again. Let's think about extension of the lesson.

This is an example of writing extension assignment.

" You work for Japanese tourist board. How do you plan the tour in Japan? "

Reflection

Which do you think would have been motivating for students?

1. Exactly the same material - trip to Scotland

2. Use the same procedure but use brochures from Spain instead of Scotland

- check comments on Page 10

(Summary of the class)

What are authentic materials?

They are written or spoken text aimed at native speaker of English.

How and when to use them - not in every lesson

- as a warmer to raise interest

- as a main input text for a lesson, and / or

- to deepen students understanding of textbook topic

—End of class—

○B グループ ワークショップ II

梶山女学園中学高等学校 教諭 林嗣博

2時間目のワークショップでは、前時に体験した学習活動について、教師の視点からその活動の振り返りと分析を行う。

自己関連性という言葉が今回のテーマである。具体的には、自分自身の考えや意見を述べたり、自身の経験に基づいて話したりする活動のことを、自己関連性の高い学習活動と呼ぶが、「話す」「書く」といったアウトプット型の学習活動に自己関連性を持たせることによって、学習者の表現しようとする意欲を高めることが可能となる。



自己関連性を持たせた学習活動が重要である理由として、以下の3点がある。

1. 用いられる言葉はどれも学習者自身に関連する内容である。
2. 意味のあるコミュニケーション活動が作られる。
3. 覚えた表現を使って相手に伝えようとする姿勢は言語の定着に役立つ。

自己関連性を持たせた活動は、教科書のどのレッスンにおいても行うことが可能である。ただし、学習活動を計画する段階においては、以下の点に留意する必要がある。

1. アクティビティーは多くの議論を生む内容であるか。
Yes/No で終わってしまうような単純な活動からは活発な発言を引き出すことはできない。
”Where did you go on your school trip last year?”のように、同様の返答しか引き出せない活動も相応しくない。
2. 学習者は与えられたテーマに関する十分な知識を持っているか。
例えば”How can we make air travel more environmentally friendly?”と質問をする場合、学習者が飛行機や環境に関する知識を持ち合わせていなければ、活発な活動は期待できない。
3. 学習者は英語で議論を進めることができるか。
ある程度中身の詰まった議論を求める時、事前に useful expressions を紹介して練習することで、その後の活動をうまく引き出すことが可能となる。

また、指導上の留意点として、こうした学習活動において避けるべき不適切なトピックについても、いくつかの例を挙げながら、その理由などを議論した。以下は、不適切な質問の例である。

- ・ How do you feel stealing? ・ How many friends do you have?

これら自己関連性に関する専門的な知識を一通り学んだ後、実際の教科書に出てくる複数のテーマからグループごとに1つ選び、そのテーマに基づく「自己関連性のあるスピーキング活動」を作り、全体で共有した。

実践発表／模擬授業

2名のLEEP受講生が実践発表／模擬授業を行った。テーマは「Reduce TTT」と「The Power of Personalisation in English Class」。

①進化する教員研修 LEEP から CELTA Cambridge English School へ

工学院大学附属中学校・高等学校 教諭 中川 千穂

私はLEEP取得後、世界のどこでも英語が教えられる資格CELTAも取得し、Cambridge Teacher's competitionで世界一となった。私がLEEPからステップアップできたので、皆さんもできるはずと思う。その後各地で英語教育改革について話をしている。本校でも英語授業の改革を進めていった。生徒は最初、「英語の説明をやめて日本語で説明して下さい」と言っていたが、日本語で授業をする先生に「どうして英語でやらないの」、さらに「授業で習った教科書の場所に行きたい」と言うようになった。



学内の会議では、教員研修を実施してきた。授業の問題と解決策を検討することが目的だ。それではみなさんも、隣の方と自分の授業において問題だと感じていることを話し合ってもらいたい。聞いてみると、「生徒の学力差が大きい」など問題は共通しているものが多いようだ。では、それをどうしたら良いのかも一度パートナーと話して欲しい。

これも共通の答えが多いようだったが、皆さん活発に話されている。教員は話しすぎとよく言われるが、問題解決のポイントはReduce TTT (Teacher Talking Time) ではないか。クラス運営を向上させ、技能で生徒が一番不得意な話す技能を改善する方策として、先生が一人で話している状況を逆にすると解決になるのではないか。

まず生徒に指示を出すときは simple , short, clear が大切である。また、no hesitation, no pause, no repetition もポイントとなる。ともかく授業の問題の解決には、明確な指示を出すことと reduce TTT がポイントだ。

次に実際の授業について話をしていくが、映している例(略)は Lost & Found という Cambridge の教材である。本校は Cambridge English School なので教科書は Cambridge のもののみ使っている。これは中学1年の秋の教材だが、まず隣の先生とどうやって教えるか話して欲しい。

まず子供は本を読もうと思わない。読みたいと思わせるのが仕事である。What's this on the top? What color is it? What do you see in this big picture? Can you find another mountain? Oh, you can see it! Where is it? In Japan? What's this? Is he happy? When was it? A long time ago? と次々質問して展開する。中学1年でも volcanic eruption など英検準一級なみの単語もあるが、最後には "What happened?" "Volcanic eruption." と言えるようになる。

もう一つ例を出す。Old English Faire という題材である。もう一度パートナーの先生とどう教えるか話して欲しい。

Do you like her fashion? New? Old? What is he doing? What are they doing? と質問しても、アーチェリーは生徒は大抵知っているので答えられる生徒も多い。また文は知らないものを知るために読むものなので辞書は使わない。

もう1つ授業の例を出して、授業を通じて生徒がどう創造性を発揮していくかを紹介する。映している教材は極端な気候についてのものだが、極端な気候の土地に家を建てるならどのような家が良いか、

実際に模型を作らせる。宇宙での生活も極端なものとなるが、ならば宇宙にどんな家を建てるかも課題となりうる。中学3年の夏に生徒は行き先を選んで海外研修を行うが、アメリカのスペースキャンプで研修を行った生徒もいる。教科書で知った場所に行きたいという希望が、ニューヨークで国連を訪れることにつながり、そこで活動に加わり国連から表彰された生徒もいる。授業での personalisation がこのような活動に発展し、生徒の将来へもつながっていく。

11月にはアメリカでは National Novel Writing Month となっており、本校でもこれに参加する。生徒の作品でビブリオバトル（書評による評価コンクール）を行い、優勝したものはオンラインで出版することになっている。生徒は本を読めと言っても読まない。ならば、書くためにどんなものを読んだら良いかという方向付けをする。

2019年のケンブリッジ英検の結果では、スピーキングはどの学年も高く伸びている。新学習指導要領では、中学の国語のレベルが高校の英語レベルとなる。生徒の書く英語の質を上げるには、英語、国語の双方からのアプローチで、論理構成力を築くのが大切だ。また担任としてのアプローチも必要であろう。

英語教員も変容が必要な時代となった。ダーウインは、強い者が生き残るのではなく、変われるものが生き残ると言っている。オンラインの進化と共に、教育の個別化もますます進んでいることへの対応も課題である。

今日の話で、どうかまず Reduce TTT は覚えていて欲しい。そうすれば日本の子供たちの話す技能はさらに伸びるはずだ。

②The Power of Presentation in English Class

横浜清風高等学校 教諭 横内 敦

○授業の背景にあるもの

Debate のクラスで、高校2年生がディベートができるようにするにはと考えた時、理由をしっかりと考えられなくてはいけないが、それができていないのが現状だ。理由を述べるができるようになるためのアクティビティーをしたいと考え、Goals を To be able to express your opinions と設定し、Lost at Sea Team Building Activity を行った。本日はその授業を模擬授業で展開する。



手順

1. 置かれている状況の説明
2. 持ち物のランキング表配布 単語説明
3. 個人でランキングを考える（その際に理由を考える）
4. 3～4人でグループを作る（選んだ理由を伝え合う）
5. グループのランキングを作る
6. Coast Guard ランキングと比較
7. 個人でのランキング、グループランキングとの差を計算

留意点：2時間で授業を計画（単語、フォームを確認してから）

研究協議II

ワークショップと実践発表／模擬授業を受け、LEEPの先生方を招き質疑応答を行った。その後、参加者によるグループでの意見・情報交換が行われた。

○授業準備をかなりされているように感じたが。

中川先生：授業準備はほぼない。ワークシートも作る必要はない。ICTを活用する。
準備は生徒を良く見ることが大切。興味、モチベーションを理解する。
年間の行事と絡めることが必要。

亀井先生：今日の授業はBritish Councilが用意したもの。中学はNTを利用しているが、教科書のまとめがしっかりしているため、なるべく教科書を利用するように心がけている。
プリント、PP作りはしている。

○CELTAとは

中川先生：講義を受けて、大人に英語を教える。その資格があれば海外でも教えられる。

○中川先生の話に感銘を受けた。色々な話を聞いて混乱もした。これで良いのか。

中川先生：良いのではないか。英語を教えるのはワールドワイド。時代が変わってきている。
新しいことをやることに全力で反対する人はいる。

ここで司会の伊藤先生より以下の2点の伝達

- ・外国語教育推進ネットワークの取り組みについての紹介
- ・東海大相模のワークショップの紹介

○中川先生の小説を書かせる活動について

中川先生：11月は授業せず、ひたすら書かせる
5月オンライン Reading 登録させる
6月ブックレポート
7月ビブリオバトル
9月設定を決める
10月ストーリーの並び替え
11月書き始める

*教員の仕事は本を書かせる間2人ずつ呼んでインタビューすること。

*文法の間違ひは指摘しない 公開されて恥ずかしい思いをするのは自分の責任である。

○横内先生の授業について、今日の活動は教員なのである程度できるが、実際に生徒たちはどの程度英語でやりとりができてしているのか。

横内先生：生徒たちには USEFUL EXPRESSIONS を入れながら行うので、英語でコミュニケーションはしている。しゃべりたいという思いを引き出すことがねらい。

○リーディングの時間はどのような指導しているのか。

横内先生：読ませることから始める。とにかく触れさせることを意識する。

中川先生：Fluency Complexity Accuracy を意識し、どんどん進める。
何のために読むのかを意識させる。

亀井先生：教科書の1レッスンは3時間くらいで。余った時間でPBLを行う。

中庭先生：Labeling、Drawing Pictures 等使って英語を英語で理解させる。



閉会式

総括（山崎吉朗・当研究所特任研究員）

長い研修だったが、76名の参加者それぞれの感じ方があると思うので、特に要約するようなことはしないでおく。この研修会で感じたことを良く考えて、それぞれの学校で活かしてもらいたい。それが本研修会の目的だ。開会式で話があったように進んできた LEEP だが、熱心な先生方を中心に機運が上がってきているように感じる。今回の実践発表・模擬授業は初めての試みだ。質問が多かった、ブリティッシュカウンシルのワークショップを実際に学校にはどのように取り入れているのか、使っているのかを見せるという企画であった。具体的に応用もできる内容だと思う。学校でもお使い頂ければ幸いだ。



◆都道府県別参加者人数◆

No.	都道府県	参加申込数	No.	都道府県	参加申込数	No.	都道府県	参加申込数
1	北海道	4	17	石川	0	33	岡山	2
2	青森	1	18	福井	1	34	広島	4
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	2
4	宮城	4	20	長野	2	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	1	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	1	23	愛知	1	39	高知	1
8	新潟	3	24	三重	0	40	福岡	3
9	茨城	3	25	滋賀	0	41	佐賀	0
10	栃木	3	26	京都	1	42	長崎	0
11	群馬	0	27	大阪	0	43	熊本	0
12	埼玉	2	28	兵庫	1	44	大分	0
13	千葉	8	29	奈良	1	45	宮崎	0
14	神奈川	8	30	和歌山	0	46	鹿児島	1
15	東京	16	31	鳥取	1	47	沖縄	0
16	富山	1	32	島根	0			
							計	76

アンケート結果 回収率 86% (65/76 名)

○問1 当研修会への参加目的をお知らせ下さい。

- ・研修会を通して多くの先生方とのつながりを深め、授業スキルの向上へのヒントを得ること。
- ・実際の授業見学があり、ワークショップ、講演の内容も興味深く今後の指導に何かを得られると感じたため。

○問2 当研修会をどのように知りましたか。

- ・研究所からの送付物……27名(約36%)
- ・同僚の先生から……6名(約8%)
- ・校長、管理職の勧めで……15名(約20%)

○問3 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい。

研究授業

- ・中学1年生から高校3年生、一般から帰国生クラスまで様々な授業を見学することができ、非常に満足している。先生・生徒ともに授業を本当に楽しんでいる様子が印象的だった。
- ・オンラインのスピーキング指導など、先進的な実践を実施されていて、運用などの具体的なところが分かった。また、先生方の指導など参考になる部分が多くあった。

視察校実践発表

- ・聖光学院中学高等学校で行われている授業内容や教育活動等知ることができ大変参考になった。
- ・同じ中高一貫校として、6年間の授業の組み方が参考になりました。

研究協議Ⅰ

- ・学校ごとに様々な取り組みがあり、大変参考になった。
- ・現状を率直に話し合うことができた。収穫も多かった。

講演

- ・教授法ばかりに気を取られてはいけないと改めて考えさせられた。我々英語教師の英語力を向上させる必要性を感じた。
- ・教授法は自分に合ったもの、生徒の現状に合ったものを組み合わせて使うことが大切ということを実感した。個性を出せる授業にしていきたい。

ワークショップ

- ・準備する上での留意点など細かいところまで教えて頂いて、参考になった。
- ・とても分かり易く、自分の授業に活かせるようなアイデアをたくさん頂いた。

実践発表／模擬授業

- ・LEEP から日頃の授業へのつながりがあり、とても勉強になった。推進リーダーの普段の取り組みを知ることができてよかった。
- ・実際に授業を体験することで、授業の進め方の参考になった。

研究協議Ⅱ

- ・全国各地の学校で教えている先生方とお話しする機会を持つことができて、とてもためになった。
- ・各校の具体的な取り組みを知ることができて良かった。

○問4 今回のプログラムで今後、学校で活用したい内容がありましたらお書き下さい。

- ・生徒が実際に活動したことにトピックを絡めてあげること。すぐに授業に取り入れたい。
- ・ワークショップのようなアクティビティを取り入れたい。

○問5 今後の本研修会への要望等をお書き下さい。併せて、当研究所の研修事業等に対するご意見がありましたらお書き下さい。

- ・教員自身が英語力をつけるための方策を学びたい。
- ・英語が苦手な生徒の4技能を伸ばすために必要なことを知りたい。